



NILIM

National Institute for Land and Infrastructure Management

国土交通省 国土技術政策総合研究所 採用案内



社会の「これから」をつくる研究所 「国総研」

国総研は住宅・社会資本分野における唯一の国の研究機関として、
技術を原動力に、現在そして将来にわたって安全・安心で
活力と魅力ある国土と社会の実現を目指します。
我々は、この目標を共有し、一緒に働ける仲間を求めています。



CONTENTS

File.01 –上下水道研究部・河川研究部・土砂災害研究部	3	File.08 – 学位・派遣	12
File.02 –道路交通研究部・道路構造物研究部	5	File.09 – 若手職員紹介	13
File.03 –建築研究部・住宅研究部・都市研究部	7	File.10 – 1日のスケジュール	15
File.04 –社会資本マネジメント研究センター	8	File.11 – ワークライフバランス	17
File.05 –総務部	9	Column	19
File.06 –企画部	10	File.12 – プライベートの過ごし方	20
File.07 –キャリアパス	11	File.13 – 質問コーナー Q&A	21

※ 本誌で紹介している職員に関する情報は令和5年度時点のものです。

■組織図 ※令和7年4月1日現在

旭庁舎 ■ / 立原庁舎 ■ / 横須賀庁舎 ■



所長

副所長
副所長
研究総務官
研究総務官

研究方針

基本姿勢

- ◆ 技術的専門家として行政の視点も踏まえ、国土交通省の政策展開に参画する
- ◆ 研究活動で培った高度で総合的な技術力を実務の現場に還元する
- ◆ 国土・社会の将来像の洞察と技術開発の促進により、新たな政策の創出につなげる

根幹となる活動

- ◆ 国土交通政策の企画・立案、普及を支える研究開発
- ◆ 災害・事故対応への高度な技術的支援と対策技術の高度化
- ◆ 地方整備局等の現場技術力の向上を支援
- ◆ 政策形成の技術的基盤となるデータの収集・分析・管理、社会への還元

快適に安心して暮らせる国土の 基盤づくりを支える研究

我々が、日々の生活を快適に安心して送れるのは、インフラの支えがあってこそであり、特に、災害時にはインフラが我々の生命を守ってくれています。国総研では頻発する災害から国民の生活を守るため、洪水・都市浸水・津波・高潮・土砂災害の防止・軽減並びに河川等の環境や健全な水循環に向けて研究を行っています。



1989年 入省

野口 賢二 Kenji Noguchi

河川研究部 海岸研究室 主任研究官

誇る成果は現地が教えてくれた。見る範囲、見える範囲を広げよ

平成5年北海道南西沖地震津波発生後、直ちに津波実験を行いました。得られた知見は、平成23年東北太平洋沖地震津波でも活かされました。また、民間企業との共同開発によるサンドバック工法(砂浜用超大型土嚢)は、宮崎海岸で砂丘を守る護岸として実用化され、さらに鳥取県東浜海岸では「瑞風」停車の砂浜景観に貢献しています。

かつては、研究の大部分を自ら行い、関係者と濃い議論をし大きな達成感を得ました。近年は、知見の深化やアウトソーシングの拡大により、研究の走り出し時点で研究手法や想定する成果への高い精度が求められています。

国総研の醍醐味は、技術指導を軸とした現場との繋がりです。入省直後、技術指導のため研究室長に随行した多数の海岸巡検と海岸保全を担う技術者との意見交換が、大切な財産となりました。多様な現場・現象を蓄積し、最善策の糸口を提供すること、そして共に悩む、全国の海岸管理者に頼まれる存在と自負しています。





下水道の技術政策の企画・立案・遂行に資する調査研究と技術マネジメントを行う。

- 水道研究室……水道に関する研究を実施
- 浄水処理研究室……浄水処理および給水装置に関する研究を実施
- 下水道研究室……下水道に関する研究を実施
- 下水処理研究室……下水の高度処理および再利用に関する研究を実施
- 能登上下水道復興支援室……令和6年能登半島地震による災害から上下水道施設を復興するための措置に関する技術的な支援を実施



土砂災害の発生メカニズムの解明、効果的な砂防施設整備のあり方、警戒避難や監視体制等ソフト対策に関する研究を行う。

- 砂防研究室……高精度土砂災害発生予測手法の確立、土砂・洪水氾濫、深層崩壊発生の被害推定および対応手法の確立等の研究および土石流対策等の砂防基本計画に関する技術基準案作成を実施
- 土砂災害研究室……大規模土砂災害監視手法や土砂災害警戒情報高度化手法等の開発に係る研究を実施



河川・海岸・水循環・ダム・洪水に関わる技術政策の提案や技術支援、技術基準の策定を行う。

- 河川研究室……河川、河川的环境及び河川構造物並びに流域の治水及び水利に関する研究を実施
- 海岸研究室……海岸、海岸の環境及び海岸構造物に関する研究を実施
- 水循環研究室……水循環及びこれに伴う物質の移動やダム、貯水池及びこれらに関連する水資源開発施設の運用に関する研究を実施
- 大規模河川構造物研究室……ダム、貯水池及びこれらに関連する水理構造物及び、水資源開発施設の管理に関する研究を実施
- 水害研究室……洪水並びにそのはん濫予測システム及び情報伝達システム並びに水害対策技術に関する研究を実施



2009年 入省

松橋 学 Manabu Matsuhashi

上下水道研究部
下水処理研究室 研究官

**革新的技術を社会に実装！
災害時には現地で技術支援！**

下水道研究部では、下水道革新的技術実証事業、通称B-DASHを行っています。B-DASHは、国土交通本省と共に、「安い」「早い」「優れている」革新的技術を選定し、実規模実証研究を行い、社会実装する事業です。時には十数億の研究費を扱い、大きな責任を感じることもありますが、新技術を用いた実規模での研究は国総研でしか出来ない、やりがいを感じる仕事の一つです。

また、地震、水害、パンデミック等の災害発生時には、研究で培った知見を基に、発災直後から被災地で緊急・応急対応、本復旧に関する技術支援が直接できることも大きな魅力です。



2019年 入省

西脇 彩人 Ayato Nishiwaki

土砂災害研究部
砂防研究室 研究員

**国総研で行っている
仕事に対する魅力**

生産土砂量をより正確かつ迅速に算出する手法の研究を行っています。この研究がさらに発展していくと、砂防堰堤などをより効率的な場所に設置していくことができ、コストを抑えつつ、土砂災害から人々の生活を守ることができるようになります。

また、土砂災害発生時には、自治体等からの要請により、研究室長等が専門家として派遣されることがあり、それと同行することがあるのですが、生々しい災害現場の状況を目の当たりにするという経験はなかなかないことだと思います。このように、普通では体験できないような仕事をできるというのが国総研の魅力の一つだと思います。

国土のネットワークを支える研究

人々の安心・安全な生活に必要な交通・物流。それを支える道路は、国土の要と言えます。国総研では、交通機能と空間機能という道路が果たす機能の向上及び安全で円滑な交通の確保に必要な道路構造物の研究を行っています。



1994年 入省

田中 良寛 Yoshihiro Tanaka

道路交通研究部 道路研究室 主任研究官

安全・円滑・快適な道路ネットワーク・ 道路空間の形成を支援する研究開発

道路は社会・経済・生活・文化活動を支える最も基本的な社会基盤の一つです。道路の技術基準は社会情勢の変化に対応して継続的な見直しが行われており、私が携わる道路幾何構造基準（道路の幅員、曲線半径などの基準）も例外ではありません。

今日に残るローマ街道や東海道など、古くからの道路にも一定の技術基準が存在していたことがわかっており、その時代の技術者の知恵と工夫が偲ばれます。

新しい道路の調査・設計や、既に利用されている道路の維持管理を現場で担当した経験も踏まえた上で、一般的には存在を意識されづらい、道路の技術基準をつくるという国総研の仕事も、基準に沿ってつくられた道路が後世に残り続けるという意味で、やりがいのある魅力的な仕事の一つではないかと思っています。





国土・社会の将来像を見据えつつ、道路に関する技術政策の企画・立案、普及・定着に取り組む。

- 道路研究室……道路及び道路の安全性及び利便性の向上に関する研究を実施
- 道路交通安全研究室……道路における交通安全対策及び沿道における快適な生活環境の確保に関する研究を実施
- 道路環境研究室……より良い道路空間・道路環境を実現するための研究を実施
- 高度道路交通システム研究室……道路交通システムの高度化及び情報化に関する研究を実施



全国の道路構造物において計画段階から建設、維持管理・更新に至るまでの全過程での経済的で合理的なマネジメントを実現するために必要な研究を行う。

- 橋梁研究室……道路橋の強靱化・長寿命化のための設計・施工・維持管理の研究を実施
- 構造・基礎研究室……道路橋の基礎・トンネル・擁壁など地盤の影響を受ける構造物が備えるべき性能や設計・施工・維持管理の研究を実施
- 道路基盤研究室……道路の盛土・斜面対策・舗装などについて備えるべき性能や設計・施工・維持管理の研究を実施
- 道路地震防災研究室……豪雨や地震など自然災害発生時の道路構造物の被災情報、道路防災計画や橋などの設計に用いる地震動の研究を実施



2021年 入省
村上 舞穂 Maho Murakami
道路交通研究部
道路交通安全研究室 研究官

交通事故を減らすための研究と現場への技術支援

交通事故を減らすことを目的に、より安全な道路を作るための研究・技術支援を行っています。具体的には、道路管理者の方がETC2.0プローブ情報のビッグデータを集計・分析して交通安全対策に活用できるシステムの構築や、生活道路において交通事故を削減するための研究等に携わっています。調査の一環で現場へ足を運ぶことが多いので、研究成果が現場で活用されている様子を見ると、やりがいを感じます。まだ研究者としては半人前とを感じる場面が多いですが、現場でのニーズを把握して技術支援を行える研究者となれるよう成長していきたいです。



2001年 入省
石尾 真理 Mari Ishio
道路構造物研究部
橋梁研究室 研究官

政策の最前線で技術の一旦を担う

これまでも多くの災害・事故等による道路構造物の被害があり、その対応における技術支援や、再発防止策についての研究を行っています。また、技術者不足等社会的課題に対応する戦略的な管理についての研究や議論も行われており、道路構造物に関する政策のもと、設計・管理の技術や体制は、確実な進化を遂げてきました。

自ら現地調査・解析・実験してきた研究が、技術基準等に反映され、実際に現場で活用されていくことにやりがいを感じます。そして、上司や同僚と議論しながら協力して困難を乗り越え、目標を達成することが何にも代えがたい魅力です。

人々の豊かな暮らしを守る

住宅・建築物及び都市づくりは、人々の暮らしに密接に関わる分野です。
立原庁舎では、3つの研究部が建築・住宅・都市分野の研究を行っています。



立原庁舎は建築研究部・住宅研究部・都市研究部の3つの部で構成されている。いずれも立原庁舎に位置し、精鋭の研究者が、建築・住宅・都市分野の研究を日々行っている。

2018年 入省

津留崎 聖斗 Masato Tsurusaki

建築研究部 基準認証システム研究室 研究員(現：企画部 研究評価・推進課 評課係)

研究部門・管理部門での業務について

・研究部門での経験(建築研究部 基準認証システム研究室)

防火・避難規定や用途規制等に関する2018年建築基準法の改正はご存じでしょうか。本改正には、国総研で実施された研究開発課題の成果の一部が反映されています。私自身は、技術基準原案について検討するための有識者会議の運営担当であり、間接的な関与でしたが、設計会社等に就職した学生時代の同期が法改正について話しているのを聞いたときは、改めてその影響の大きさを感じました。国総研は、建築に関する各種基準の作成側として携われる数少ない職場です。

・管理部門での経験(企画部 研究評価・推進課)

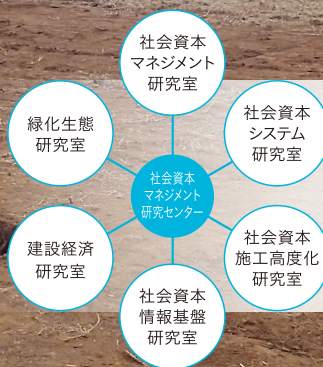
私が現在所属する研究評価・推進課では、名前の通り「研究評価」に関する業務を担当しております。研究評価一つに「研究開発機関の評価」というものがあり、ある一定期間における所全体の研究活動や環境整備の取組について、国総研の使命や研究方針等を踏まえて評価します。評価に向けた準備は、いわば一種のプロデュースのようなものであり、明確な答えがないため大変ですが、所全体という大所高所からものごとを考える経験ができます。

Message

建築系の採用は数年に一人、また、その時々によって求められる人材が異なります。国総研では随時採用相談(オンライン可)を受け付けていますので、少しでも興味がございましたらお気軽にご連絡ください。

先進的な研究開発で 課題に立ち向かう

現在の社会資本整備を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。
国総研では、最先端の建設技術に関する研究開発や基準策定等を通じて、
時代に即した社会資本整備のあり方を追っています。



河川や道路といった分野に縛られない、分野横断的・共通的な事項を中心に、設計・施工から維持管理までのあらゆる建設生産プロセスやそれらを支える情報通信技術に関する研究を実施している。

2005年 入省

大谷 周 Amane Ootani

社会資本マネジメント研究センター 社会資本システム研究室 研究官

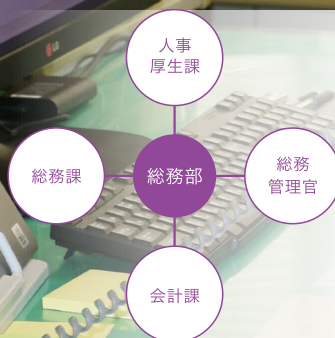
分野を超えた知識知見を吸収！仕事に活かします！！

社会資本マネジメント研究センターは、社会資本の建設生産プロセス、それらを支える情報基盤のあり方、良好な生活環境の向上などについて研究を行っています。分野横断的・共通的な内容を研究しているので、他の研究部と違い、道路、河川、機械、環境等多岐にわたる分野のメンバーで構成されています。センターでは、研究室の枠を超えて情報連絡会という形で定期的に研究者間での勉強会が開かれています。それぞれ各分野第一線の人達とのディスカッションや先進技術の事例紹介は毎回とても刺激的です。

私が所属している社会資本システム研究室では、建設生産プロセスに関係する基準の策定や建設現場の生産性向上などについて研究しています。この中で私が担っているのは積算です。積算基準の見直しや、積算の省力化・高度化に携わっています。最新技術の知見も必要ですし、従前の技術についての知識も求められるプレッシャーもありますが、困ったときは豊富な資料を確認したり経験豊かな先輩と頼りになる上司にすぐ質問。日々成長しながら、経験を楽しみながら仕事に取り組んでいます。

研究所の根幹を支える

研究職の職員だけでは、研究所の業務は成り立ちません。
総務部は、組織運営に係る主要な業務を担っています。



研究所の窓口となり、会計手続き・
人事・福利厚生等の面で研究活動を支える。

- ・人事厚生課：福利厚生や任免関係の業務
- ・総務課：組織の総合調整や庁内管理関係の業務
- ・会計課：予算や国有財産の管理関係の業務
- ・総務管理官：各研究部・センターの総合調整や会計関係の業務

いずれの課も事務系職員が活躍しており、
研究所の業務の根幹を支えている。



2004年 入省

福島 啓文 Takabumi Fukushima

総務部 人事厚生課
給与係長

組織を支える
「縁の下の力持ち」です

給与係では、給与・賞与の支給や通勤手当等の各種諸手当の認定、退職金に係る計算等を行っております。職員の皆様の生活に直結する業務となるため、正確性を求められる仕事であり、日々緊張感を持って業務に取り組んでおります。

給与関連業務は個々の作業に関連する法令や人事院が定める規則等が複雑に関連しており、毎年のように制度改正もあるため、それらを理解し深い専門性を身につけていく必要があります。給与制度を詳細に理解しつつ業務を進めることは多大な労力を伴いますが、重要な業務である分、やり遂げたときの達成感も大きいものがあります。

まさに、「縁の下の力持ち」という言葉がぴったり当てはまる仕事ではないかと思います。



2018年 入省

田中 沙季 Saki Tanaka

総務部 会計課
調査係

より良い社会を
築くために

私は会計課調査係に所属しております。主な仕事は、各研究室から依頼があった業務等を発注するための事務手続きを行うことです。事務手続きと聞くと、どうしても一人で黙々と作業を行うイメージが強いかもしれませんが、確かにイメージの通りそのような時間もあります。私が所属する会計課調査係では、研究者の皆さんと密に連絡を取り合い、相談をしながら業務の発注手続きを進めていきます。このように、事務的なサポートで、多少なりとも研究の内容に携わることができます。そうして業務が実際に発注できると、自分の仕事で、より良い社会を築くために貢献していると実感することができるとてもやりがいのある仕事です。

研究所全体の方針・運営を担う

国総研の研究分野は多岐に渡っており、総合調整を担う部署が必要不可欠です。企画部は国総研全体の研究方針や運営にかかる企画・立案業務を担っています。

研究方針

共同研究

産・官・学



研究所全体に関する企画・立案を通じて、研究業務の円滑な遂行をサポートする。

- 企画課：調査、研究及び開発にかかる業務の総括と企画・立案業務
- 研究評価・推進課：研究評価と広報にかかる業務
- 施設課：研究所内の施設整備業務
- 国際研究推進室：海外の土木技術及び建築・都市計画技術の調査関係国際及び協力に関する企画立案業務
- サイバーセキュリティ対策・情報利活用推進官：情報システムの整備及び管理に関する業務

多くの課は技術系職員と事務系職員が協力して業務を遂行している。



2004年 入省

池上 博章 Hiroaki Ikegami

企画部 企画課
調整係長(併)企画係長

新たなものに
触れる楽しさ

企画課調整係では国総研の研究に必要な予算の要求や配分のほか、交流研究員や夏期実習生の受入れに関する事務等を担当しています。係名のとおり、事務部門と研究部門の間に入って調整を図ることが多く、1つの作業をするにもマルチに様々な方とのやりとりを必要とします。中には一筋縄ではいかないケースもありますが、試行錯誤しながらやり遂げたときには成長を感じると共に達成感があります。

また、企画課ではDXの一環で導入した3Dプロジェクターやドライビングシミュレーター、3Dプリンタといったものがあり、新しいものに触れやすい環境にあることは魅力の一つです。



2022年 入省

福岡 千陽 Chiaki Fukuoka

企画部 企画課 研究員

人と社会をつなぐ
研究活動を支える

企画部企画課では視察対応やイベント運営、パンフレット作成などの所外広報や共同研究・委託研究などの研究者の活動を支援する事務等を主に担当しています。特に所外広報業務では国総研全体の活動を幅広く頭に入れておく必要があり、頼りになる上司、先輩方に教わりながら仕事を進めています。所内・所外問わず多くの方と関わりながら、新たな取り組みをつくっていく企画課の仕事を通じて、国総研の研究がどう社会に実装されているかを日々実感しています。

国総研は様々な経験を通し、広く物事を見る力を鍛えられる職場だと思います。人と社会をつなぐ重要な立場だという責任を持ち、これからも成長していきたいと思っています。

将来像を知る

国総研で働く職員は、他機関への出向等を含めた異動を通じて、経験と研鑽を重ねます。ここでは3名の職員の経歴を元に国総研職員の代表的なキャリアパスをご紹介します。



河川研究部 水害研究室 研究官

入省10年目：中村 賢人 Kento Nakamura

研究員としての基礎固め

1～2年目 河川研究部 河川研究室 研究員

河川における津波遡上のメカニズムの解明へ向け、学識者や国土交通本省等と意見交換をしながら研究を進めました。

3～4年目 河川研究部 河川研究室 研究員・研究官

点群データによる効率的な河川管理について各地方整備局のニーズを調査し、それを踏まえ測量の実施要領を改訂しました。

地方整備局出向による
現場感覚の養成

5～6年目

関東地方整備局
下館河川事務所 調査課

関東地方整備局へ出向し、平時には河川の水位や水質を調査し、洪水時には地方自治体等へ情報伝達を行う業務に従事しました。

研究官としての自立

7～8年目

河川研究部 水害研究室
研究官

効率的な水害リスク情報作成手法に関する手引きを策定しました。また、手引きに残された課題の解決へ向け、研究をしております。

印象に残っている業務

学識者や関連部署と協議を重ね、新たな手引きを策定したことです。



下水道研究部(当時) 下水道研究室 主任研究官

入省23年目：濱田 知幸 Tomoyuki Hamada

研究員としての基礎固め 1～5年目

下水道研究部 下水道研究室

地方公共団体、維持管理事業者や住民皆さんに協力をいただきながら、ディスポーザー排水の受入による下水道への影響・効果を調べた社会実験に携わりました。

本省出向による
広い視点の習得 6～7年目

総合政策局総務課国際建設室

国土交通本省総合政策局に出向し、海外の建設プロジェクトに関連する業務に従事しました。

事業団出向による
現場感覚の養成 8～12年目

地方共同法人日本下水道事業団

日本下水道事業団に出向し、地方公共団体の汚泥処理に関する基礎検討業務に従事しました。

印象に残っている業務

新潟県中越地震や東日本大震災の際に従事した下水道施設の機能維持を目的とした業務です。

研究官としての自立 12～15年目

下水道研究部 下水処理研究室

下水道の省エネルギー化推進を目的とした、下水道設備の電力使用量等の実態調査を担当しました。

所全体を俯瞰する立場
での行政スキルの獲得 16～18年目

企画部研究評価推進課 企画課

システム管理、委託研究、研究予算の要求窓口など研究補助業務に従事しました。

19年目～

下水道研究部 下水道研究室

下水道管路施設の地震対策の他、人口減に伴う下水道施設の余力を活用した付加価値向上に関する調査に取り組んでおります。



総務部 総務課長(併)総務管理官(旭)

入省39年目：杉山 茂 Shigeru Sugiyama

様々な業務経験

6～9年目

建設省土木研究所 総務部
会計課 予算係

研究所の予算を要求する業務や予算の適正な執行を管理する業務を担当しました。

マネジメントの基礎づくり

20～21年目

国土交通省国土技術政策総合研究所 総務部
人事厚生課 給与係長

職員の毎月の給与や年2回のボーナスの計算・支給に関する業務を担当しました。

独法出向による他機関の経験

25～28年目

独立行政法人土木研究所 総務部
会計課 主査(調査担当)

研究所が発注する業務の所内委員会の運営や入札公告の手続きに関する業務を担当しました。

印象に残っている業務

関東地整下館河川事務所へ出向した際に、「鬼怒川緊急対策プロジェクト(堤防整備、タイムラインの整備・訓練等)」に係わる業務を経験しました。地域住民や自治体との一体感・距離感の近さを感じることができた貴重な経験となりました。

様々な知識・経験を踏まえたマネジメント

30～32年目

国土交通省国土技術政策総合研究所 総務部
人事厚生課 課長補佐

職員の任免、勤務時間、給与、期間業務職員に関する課内各係の業務の調整を担当しました。

関東地整出向による貴重な業務経験

35～36年目

関東地方整備局 下館河川事務所 副所長(事務) 鬼怒川・小貝川を管理する事務所の副所長として、総務、経理、用地、占用調整に関する業務の総合調整を担当しました。

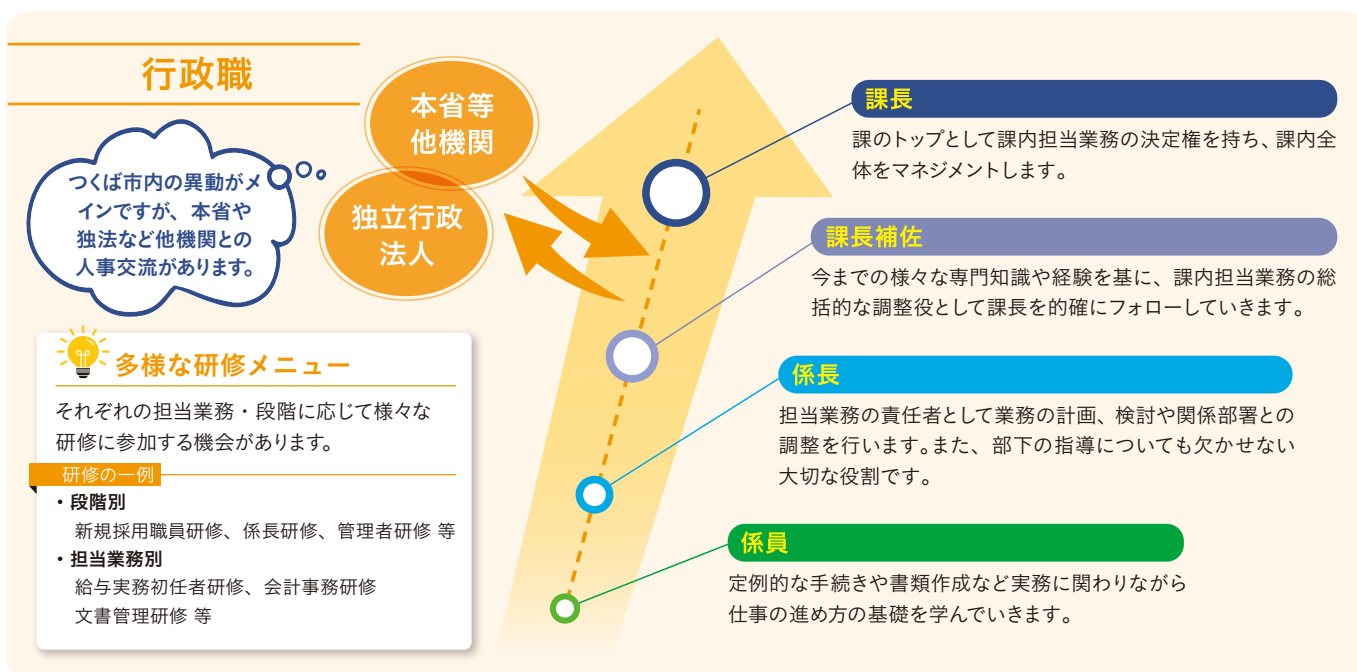
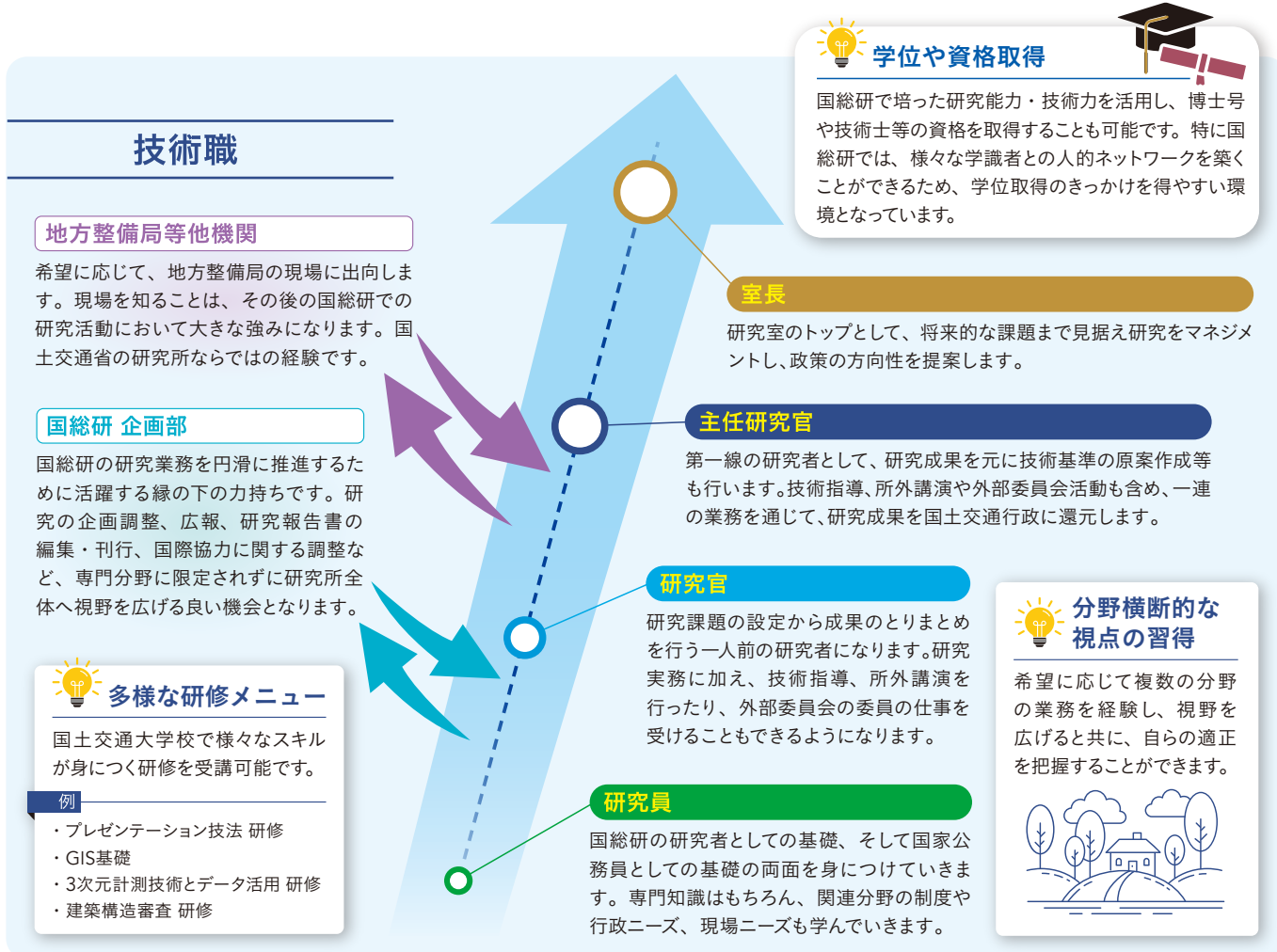
マネジメントスキルの発揮

37年目～

国土交通省国土技術政策総合研究所 総務部 総務課長 研究所の定例会議の運営、庁舎管理、文書管理、コンプライアンスに関する業務の総合調整を担当しています。

キャリアパスを見てみよう

国総研の職員として働くうえで、今後歩んで行くキャリアパスについて図と共にご紹介します。



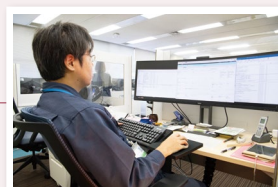
国総研ならではの経験

他機関では得がたい国総研ならではの経験をすることができます。その中でも今回は職務につきながら博士学位を取得した事例、専門家としての技術指導を目的とした災害時派遣(TEC-FORCE(高度技術指導班))の事例についてご紹介します。



学位取得

福原 直樹 河川研究部 海岸研究室 研究官



在学期間における組織内の実態について

私は河川研究部海岸研究室に所属し、大型水理模型実験やモデル計算等を通じて、海岸堤防や人工リーフ等の海岸構造物に関する研究を行っています。数年前までは同研究部の河川研究室に所属しており、その間に学位を取得しました。

学位取得にあたっては、その当時行っていた研究テーマの一つである「大規模実験結果の解析」に着目し、大学では、それらの計算や解析を更に追求するテーマを設定し、3年間定期的に大学に通い、指導教員との議論等を行いました。大学では平日の講義等も受ける必要がありましたが、夏期休暇や有給休暇を利用して対応しました。また、大学に通っている途中で初めての異動を経験しました。研究部門から管理部門への異動でしたが、

国総研は、研究所の一面よりも公務員組織という一面が強いところがあるので、このような異動は数年おきに生じます。その際、学位取得の断念や休学も視野に入れましたが、当時の室長から実験室の使用許可をもらい、異動後も定時後や土日等の時間を使って継続して研究を行うことができました。このような上司からのサポートもあり、無事に学位を取得することができました。

国総研の研究には、机上での分析・検討のみならず、各地方整備局・各地方自治体と協力しての全国的調査や現地スケールの大規模実験といった“国総研だからこそできるオリジナリティーのある研究”があります。学位のテーマにはオリジナリティーが必須であることを踏まえると、博士号取得のテーマのきっかけを見つけることができる職場だと思います。



災害派遣

笹岡 信吾 河川研究部 河川研究室 研究官



培った経験を技術へ。そして対策へ反映し、人命と資産を守る

これまで、東日本大震災、関東・東北豪雨、熊本地震、九州北部豪雨、西日本豪雨、北海道胆振東部地震、令和元年東日本台風による水害など、全国各地の災害を受けた被災地において、TEC-FORCE等による災害調査を実施してきました。主に災害直後



にしか得ることのできない被災の痕跡を記録するとともに、被災原因を特定し、応急対策や本格復旧時の設計検討などを行ってきました。

時に災害派遣の現場は、被災の爪痕が残る厳しい状況の中で実

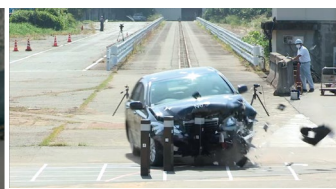
施することも多く、状況によっては危険も伴います。ですが、被災された方々や、いち早く復旧・復興するために身を粉にして働いている国交省職員やその他多くの方々の苦労を考えると、少しでも役に立てたらと力が湧き上がります。

また、国総研ではチーム一丸となって災害対応にあたります。情報収集、派遣者調整、調査結果の整理とりまとめなど、これら災害現場以外の場所で戦っている職員のバックアップがなければ災害対応は成り立ちません。

これら災害対応によって得られた経験を研究に反映していくことにより、その後の対策方針や政策に結びつくため、被災地の復旧・復興や今後の災害発生時の被害軽減に貢献することができ、国総研の存在意義とともにやりがいを感じています。

広大な敷地と実験施設

国総研には様々な実験施設があり、日々研究に活かされています。実物大の模型を使うことで実現象に近い条件で実験を行なっています。どのような実験が行われているかについて2つの事例をご紹介します。



衝突実験施設

池原 圭一

道路交通研究部 道路交通安全研究室
主任研究官



衝突実験施設は、ガードレールなどの防護柵に車両を衝突させるための施設です。衝突させる車両は、ウインチ装置の動力で無人で加速できます。これまで身近なガードレールの他にも、高速対応型や景観配慮型など、多くの防護柵開発に役立てられています。

最近のトピックは、通学路などになっている交差点のたまり空間に、車両の進入を防ぐためのポラードを設置することです。このようなポラードの普及にあたっては、ポラードの強度などの基準を整備する必要があり、衝突実験を行うことで、強度はどのくらいが適切なのか、配置はどのようにすべきかなど、重要なポイントが見えてきます。これらをもとに基準等へ反映する要素を見出します。衝突実験施設はそのために活かされています。様々な観点から物事を解釈してゆく上では、日頃から内外の協力者から知見を得られる関係性を築いておく、これが大切だと実感します。総力戦で挑んでも成否が決まる実験はいつもヒヤヒヤです。こんな経験も国総研の面白みだと思います。



大規模堤防 模型実験水路

三尾 奈々恵

企画部 企画課 研究員

国総研の実験水路は最大4m高さの実大の堤防模型を築堤することができ、模型の背面（実際の堤防の川に面している側）から通水することで河川増水時の越水現象を再現して実験を行うことができます。初めて実験を間近で見た際は実大の堤防を超える水の力に圧倒され、同時に恐怖も感じました。

国土交通省では、越水に対して粘り強い河川堤防の技術開発を行うための技術的検討を行っており、河川研究室の大規模堤防模型実験水路における実験を元にした検討は「粘り強い河川堤防の構造検討に係る技術資料（案）」としてまとめられ、公表されました。実験を行ったらそこで終わりではなく、その先の全国で参照される技術資料や手引きなどの成果に必ず繋がっていきます。広大な敷地に整備された施設で実物大の実験を行うことができるのが国総研の持つ大きな特徴です。

実験の結果を全国の現場に還元する重要な役割を持つ機関であると思います。



国総研の職員として働く

聞いて
みました

仕事をしていくうえで気になるポイントについて、国総研で働いている若手職員に聞いてみました

企画部 企画課 調整係

小川 和真

Kazumasa Ogawa

2023年入省

質問！

国総研を
選んだ理由は？

地元で社会貢献ができる職場です。

私は将来は社会に貢献できる仕事につきたいと考えており、国家公務員を目指しておりました。地元がつくば市で、子供のころに体験した国総研主催のイベントを今でも覚えていたこともあり、国総研を志望しました。

私は企画課調整係で研究予算の要求のための資料作成や民間企業や地方公共団体からの交流研究員の受入れの手続き等を担当しています。採用1年目でわからないことも多いですが、上司や先輩方に相談すると、とても丁寧に教えてくださるので、安心して業務を進めています。

下水道研究部(当時)
下水処理研究室 研究員

陣矢 昂汰

Kouta Jinya

2023年入省

質問！

国総研を
選んだ理由は？

研究と成果の還元を通して社会に貢献したい

国総研の使命は社会インフラの課題を解決するための研究をすることに加え、ガイドラインを策定することなどによって必要な技術を社会に還元することです。私は研究成果を自ら社会に還元し貢献していくことに魅力を感じ、国総研を選びました。下水道研究部では研究・検討のみならずB-DASHという下水道に関する革新的技術の開発を加速させる実証事業やエネルギー分科会の運営等も行っています。これらの業務においても日頃から最終的な社会実装を見据えた議論がなされており、社会貢献への一歩を日々感じています。

河川研究部 水循環研究室
研究官

小沢 嘉奈子

Kanako Ozawa

2016年入省

質問！

大学で学んだ分野意外の
研究分野でも活躍できる？

専門的な知識を養いながら仕事ができる職場

私は、大学では主に地質学を専攻しておりましたが、入所後、水循環研究室に配属されて、初めて河川に関する学問分野に触れました。当然最初は分からないことだらけでしたが、研究室の専門書等や周りの先輩方に教えて頂きながら業務に関する知識を深めていくことができました。研究室の書庫の他にも国総研の中には図書館があり、自由に専門書を閲覧することができます。国総研は大学の専門分野に依らず、日々の業務の中で学びながら専門知識を養うことができる職場だと思います。

下水道研究部(当時)
下水処理研究室 研究官

長寄 真

Shin Nagasaki

2019年入省

質問！

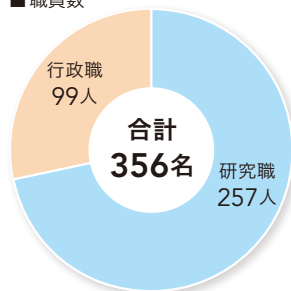
自分の研究はどういうところで
活かされていると感じる？

新技術の社会実装を加速させる研究

現場が抱えている様々な課題(人口減少、施設老朽化、エネルギー等)を解決するため、新技術社会実装することが有効な手段となることがあります。しかし、一般的に、現場では実績のない新技術の導入に慎重となる傾向があります。

そのため、実大スケールの施設・設備を用いて研究を行うことで、その新技術の性能や導入効果(省エネ、省コスト等)を検証し、社会実装に向けた資料を作成します。下水処理研究室の研究活動を通じて、新技術の社会実装が加速され、現場の課題解決に活かされていると感じています。

■職員数

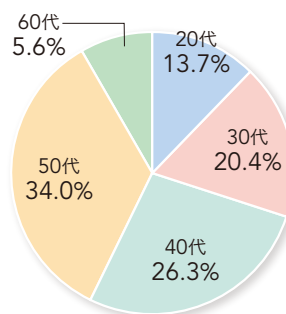


● 職員の割合

国総研では行政職・研究職の職員が働いていますが、研究職が全体の7割を占めています。研究者が主役となり日々研究活動を行っています。なお、行政職職員とは、事務系職員と企画部に所属している技術系職員のことを指します。

※ 職員の構成(令和7年4月1日現在)

● 職員年齢割合(令和6年度齢)



国総研職員の年齢構成は中堅・ベテラン層が最も多いものの、若手層も厚く全体としてバランスの良い割合となっています。中堅職員が多いため、若手職員へ目が届かないということはなく、きめ細やかな若手育成が行われています。



河川研究部 水害研究室
研究官

海老原 友基

Yuki Ebihara

2019年入省

質問！

自分のスキルを
生かせる場面は？

全国に関わる課題にチャレンジできる

国の研究機関であるため、研究室では全国の水防団の活動のなかで抱える課題の解決に取り組んでいます。幅広い視野で課題を俯瞰・検討していくと同時に、時には地域にフォーカスして深く課題解決策を考える必要があります。その成果が国の課題解決施策につながることもあり、まさに国交省の仕事の最前線と感じているところです。

私は機械を自ら操作したり解析ソフトウェアを動かすことが好きで、研究室で保有しているGISソフトなどの技術を使役して、課題解決に奔走しているときはやりがいを感じます。



ちなみに...

リクルートページなどの国総研の空撮は私がドローンを操縦して撮りました。



総務部 総務管理官付(旭)
主査(併)総務課

栗原 友里恵

Yurie Kurihara

2023年入省



質問！

自分のスキルを
生かせる場面は？

内外部の連絡調整

私は前職で市役所に勤めていたため、広報や税金、学校関係など幅広い分野に携わっており、外部と関わることも多くありました。そこで経験した部内外の調整の仕方やコミュニケーションの取り方など、これまでに積んだスキルを今の職場でも活かしています。

また、職場の雰囲気も良く、意見の発言がしやすいため、より自身の経験が発揮しやすい環境です。これからさらに多くの経験を積み、国の技術を支える研究者を支援し、自身も間接的な担い手の一人として励んでいきたいと思っています。



道路構造物研究部
構造・基礎研究室 研究員

藤原 茜

Akane Fujiwara

2021年入省

質問！

仕事とプライベートの
両立は？

残業しない日を設定して仕事とプライベートを両立

国総研の研究部の仕事は、期限が短いものは比較的小なく、計画的・効率的に業務を進めることで、残業をする日がある程度コントロールでき、プライベートを充実しやすい点にも魅力があると思います。国総研では水曜日と金曜日は定時退庁が推奨されていることもあり、私は水曜日と金曜日はできるだけ残業をしないようにして、プライベートの時間に充てています。他にも、お昼休憩時に30分程度ペン習字をすることで、リフレッシュしています。



総務部 人事厚生課 厚生安全係

佐々木 真紀

Maki Sasaki

2018年入省

質問！

職場の雰囲気は？

相談しやすく、風通しの良い職場です

入省1～2年目は土木研究所に配属されました。最初は分からない事ばかりでしたが、上司や先輩が丁寧に優しく教えてくださり、安心して業務を行うことが出来ました。3年目以降は国総研に配属となり環境や仕事内容が変わりましたが、困ったことがあれば上司などが親身になってサポートして下さいます。職員同士のコミュニケーションも多く、常に協力し合いながら業務に取り組むことができ、とても仕事がしやすい職場です。

また、若手職員も多く毎日楽しく働くことが出来ています。

File. 10 1 DAY Schedule



2000年入省
小堀 俊秀さんの1日
河川研究部 大規模河川構造物研究部
主任研究官

■仕事内容

私の所属する研究室では、ダムの安全管理の効率化・高度化に資する研究を行っています。私は研究課題の一つとして、ダムの安全管理を行うためのダム堤体の変位計測手法に関する研究に取り組んでいます。参考に、計測機器を設置するための現地調査時のスケジュールを紹介します。

私のOff time

平日はデスクワークが多く運動不足気味なので、休日はジムに行き体を動かしています。



～現地調査前日

一緒に現地調査を行う同僚と、前日までに行程や調査事項の詳細について打合せを行います。



説明資料は、相手に端的に伝わる資料となるように心がけて作成します。

現地調査
当日

6:30

起床・朝食

8:00



今日の現場に到着

AM



▶現地調査①

ダム管理職員と、今回の現地調査の目的や関連する研究課題の概要等について打合せを行います。



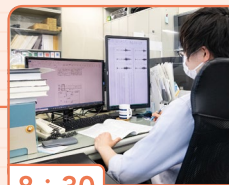
2016年入省
石井洋輔さんの1日
道路構造物研究部
道路地震防災研究室 研究官

■仕事内容

私は、土木構造物の地震時挙動の観測に基づき、構造物の耐震設計を高度化・合理化するための研究をしています。仕事内容は、現地調査に行くこともありますが、解析や論文執筆などのデスクワークが中心です。在宅勤務でもスタイルが大きく変わることなく研究に集中しています。

私のOff time

同僚と夜ご飯を食べてリフレッシュや情報共有しています。また、最近ではオンラインゲームをしています。



8:30

▶データ整理・分析、資料作成

研究の基礎データを整理やデータ分析します。
また、分析内容を説明するための資料を作成します。

8:20

出勤



メールやスケジュールのチェック
電話応対など適宜実施



2020年入省
高橋 絵梨子さんの1日
総務部 人事厚生課 給与係

■仕事内容

私は人事厚生課給与係に所属しています。名前のとおり職員の給与に関する業務を行っています。給与の中には、基本給のほか、通勤手当や住居手当といったさまざまな手当があります。手当については職員から申請があった際には規定に基づき、内容の審査・認定を行い、給与の支給を行っています。

私のOff time

同僚とご飯に行き、リフレッシュしています。自宅にいるときには、動画配信サイトをみてゆっくりしています。

8:20

出勤



9:00

▶打ち合わせ

法改正等があったときは、内容の確認と今後の対応について打ち合わせします。



8:30

▶メールチェック

出勤したらまず、メールをチェックし、その日行うべき業務を整理します。



10:00

▶給与計算

給与システムに各種手当の届出の情報を入力、確認し、給与計算を行います。



国総研では日々様々な業務を行っています。
研究職・行政職3名の方の代表的な1日のスケジュールをお見せします。

12:00~13:00



▶ 昼食

現地調査では、ダム周辺のおいしい食材も事前に調べ、食べに行きます。これも大事な現地調査の一環です！



夕方



▶ 現場調査終了

帰り際に現場にあるダムの広報施設で記念撮影。

職場に戻ったら、協議結果や、新たに得られた情報や写真の整理等を行います。



PM



▶ 現地調査②

今回の調査では、SAR衛星の計測を補助するためのリフレクターと呼ばれる機器の設置位置等を決めています。

研究成果が現場で導入されているのを見ると、さらに研究のやる気が増します。



17:15

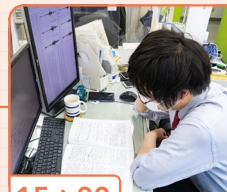
退勤

12:00~13:00



▶ 昼食

食堂や売店のお弁当が中心。時々外食しています。



▶ 論文執筆

実施した内容を論文としてとりまとめます。

15:00

13:00



▶ 研究打合せ

研究の内容や方向性に関して打合せします。

17:15



▶ 退勤

解析や論文執筆等を残業する場合もあります。定時退庁する際は同僚と飲み会しています。

12:00~13:00



▶ 昼食

所内にある売店でお弁当を買い、同僚と一緒に昼食をとります。



▶ 退勤

今日中に処理すべき業務がないか確認し、書類を整理して帰宅します。

17:15

15:00



▶ 書類の送付

手当の届出書類に確認事項があったため、研究部の事務担当へ説明、とりまとめを依頼します。

20:00



▶ 部活動

国総研にあるバレーボール部に所属し、課外の職員とも交流を深めています。

誰もが働きやすい職場づくり

職員が働きやすい職場であるために、国総研では結婚・育児・介護等の際にも仕事と家庭の両立ができるような様々な制度で支援をしています。ここでは実際に制度を利用した職員の体験談と職員が利用可能なワークライフバランスに関する各種制度をご紹介します。



大河内 恵子さんの ワークライフバランス

道路交通研究部 道路環境研究室
主任研究官

国総研には様々な制度があるので、ライフステージに応じて必要な制度を利用することができます。私はフレックス制度を利用していますが、フレックス制度は利用している職員も多く、フレックス制度を使う理由は問われないため、大変使いやすい制度です。例えば、終業時刻を早めて子供の学校行事に参加したり、子供を予防接種に連れて行ったりしています。

国総研は制度が整っているだけでなく、実際に制度を利用している方が身近にいますので、制度を使った働き方がイメージしやすい環境です。こういった制度があることで、安心して働くことができますし、男性・女性にかかわらず、仕事と家庭を両立しながら自分らしく働くことができる職場です。



木村 泰さんの ワークライフバランス

社会資本マネジメント研究センター
社会資本マネジメント研究室 研究官

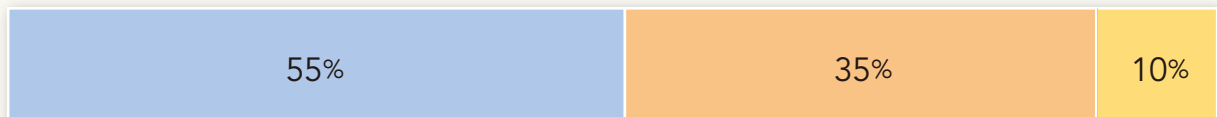
私は1人目が生まれる際にいわゆる男の産休を7日間(出産前に「配偶者出産休暇2日間」、産後直後に「男性職員の育児参加のための休暇5日間」)を取得し、続けて育児休業を約1カ月半取得しました。こうした育児休業等の制度が充実しており、制度取得に寛容・理解ある職場環境ですので、女性に限らず男性も積極的に制度を利用して育児経験をすることをお勧めします。実際、大変なこともありますが、日に

日に成長するわが子を夫婦揃って、すぐそばで見守れたことは何よりも貴重な経験でした。もう少し長めに育児休業を取得しても良かったなと思ったりしますが。

職場復帰し仕事と育児の両立を進めていく際には、「保育時間(1歳になるまでの間、1日2回、30分取得可能な制度)」を夫婦で上手く利用しました。この制度のおかげで、子の保育園送迎ができたのはありがたかったです。

私の場合、子の誕生により生活の中に「育児」が加わったことで、以前よりも仕事と生活のメリハリが付いたように思います。仕事と育児の両立が可能なのは、そうした個人の事情に理解ある職場だからこそだと思います。

● 育児休業期間の状況(国総研：令和7年4月1日現在)



■ 1月未満 ■ 1月以上6月未満 ■ 6月以上1年未満 ■ 1年以上

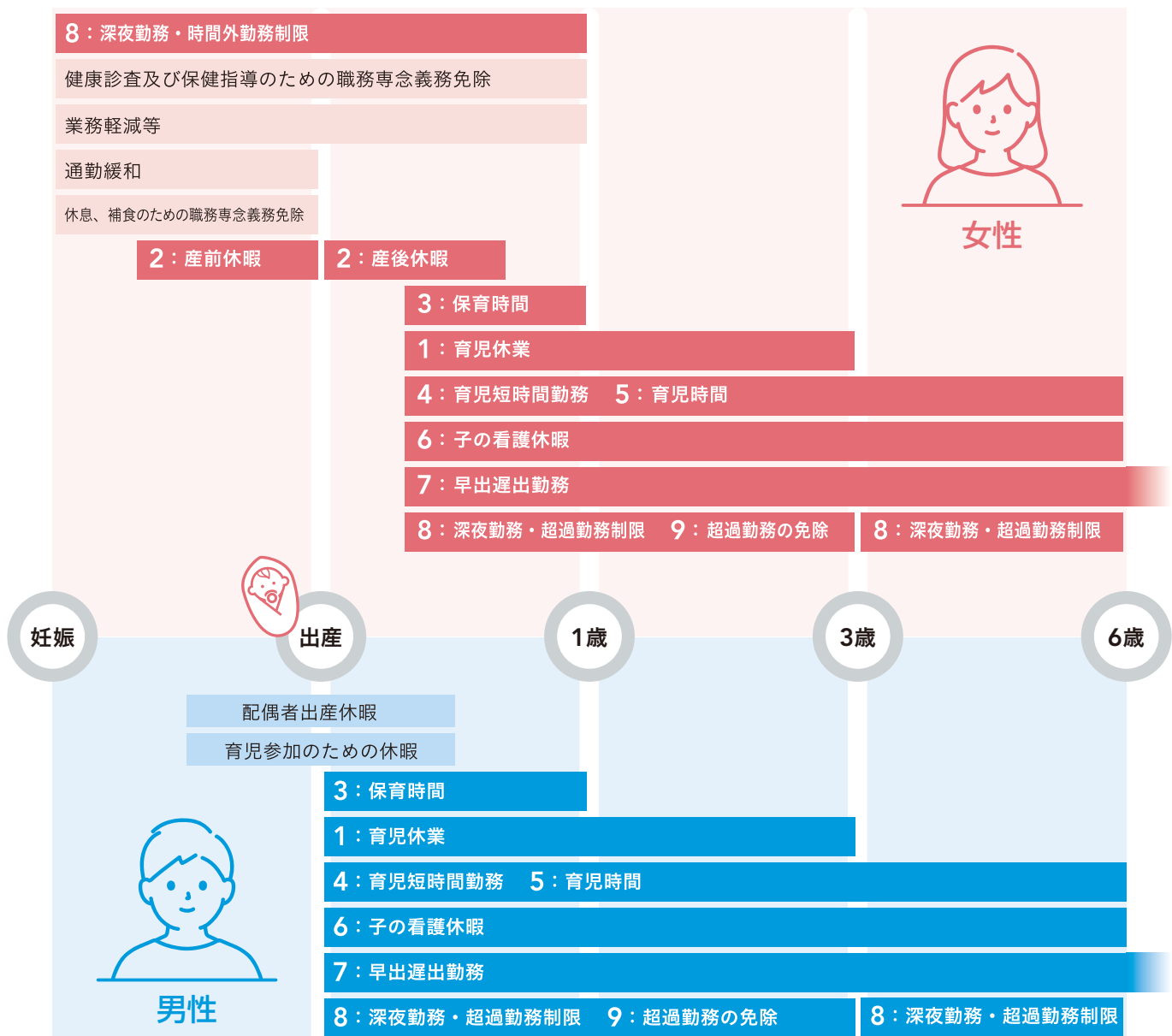
キャリアサポート研修

国総研では、採用時・昇格時等のタイミングで独自の研修を実施し、サポートしています。その他にも国土交通大学校などの他機関が実施する研修に参加し、専門的な知識や技術を身につけることが可能です。詳細は12ページをご確認ください。

● 利用できる制度

1	育児休業 3歳未満の子供を養育するために休業（その子が3歳に達する日まで）可能。	5	育児時間・介護時間休暇 小学校就学前の子どもを養育又は父母等を介護する場合に1日の勤務時間の一部（2時間まで）を勤務しないことが可能	9	超過勤務の免除 3歳に満たない子を養育する職員又は日常生活を営むのに支障があり介護を要する親族（要介護者）を介護する職員が申請すると、超過勤務が免除される
2	産前・産後休暇 産前6週間（多胎妊娠の場合は産前14週）、産後8週間の休暇が取得可能	6	子の看護休暇 小学校就学前の子どもを看護するために1年のうち5日（子が2人以上の場合には10日）の範囲内で取得可能	10	介護休暇 家族の介護のため通算6か月取得可能
3	保育時間休暇 生後1年に達しない子を保育する場合に1日2回それぞれ30分以内の期間休暇が取得可能	7	早出遅出勤務 小学校就学前の子どもを養育、放課後児童クラブ等に通う小学生の子どもの送り迎え、又は父母等を介護する場合始業・終業時間の繰り上げ又は繰り下げて勤務可能	11	短期介護休暇 家族の介護のため年5日（対象となる要介護者が2人以上の場合は年10日）取得可能
4	育児短時間勤務 勤務時間を1日3時間55分（週19時間35分）等に短縮可能	8	深夜勤務・超過勤務制限 小学校就学前の子どもを養育又は父母等を介護する場合に申請すると、深夜勤務は免除、超過勤務は月24時間・年150時間以内に制限される	12	フレックスタイム制 総勤務時間数を変えずに、日ごとの勤務時間数・勤務時間帯を変更可能

● 利用できる期間(妊娠から就学まで)





このコーナーでは、人事採用に関する、よくある御質問に、率直にお答えいたします。掲載されていない御質問に関しましては、遠慮無く問い合わせ先にお尋ね下さい。

勤務地 茨城県つくば市

勤務日 月～金曜日(完全週休二日制)

勤務時間 8:30~17:15

■ 基本給(学歴や職歴により加算あり)

(一般職試験の場合)

【行政職】大卒:255,200円～

高卒:218.080円～

【研究職】院卒:276.892円～

学部・高専卒:262.392円～

(令和7年4月現在:本俸と地域手当を合算した額)

■ 期末・勤勉手当(ボーナス):年2回(6月、12月)支給

■ その他：通勤手当、超過勤務手当、扶養手当、住居手当等。宿舎あり。

休日・休暇

■ 完全週休二日制

(土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始は休み)

■ 年次有給休暇

採用の年は1年間で15日

毎年1月に20日付与

20日まで翌年繰越可

■ 特別休暇

夏季休暇3日間の他、結婚、出産、忌引き等の場合は規定日数以内で休むことが可能。

施設

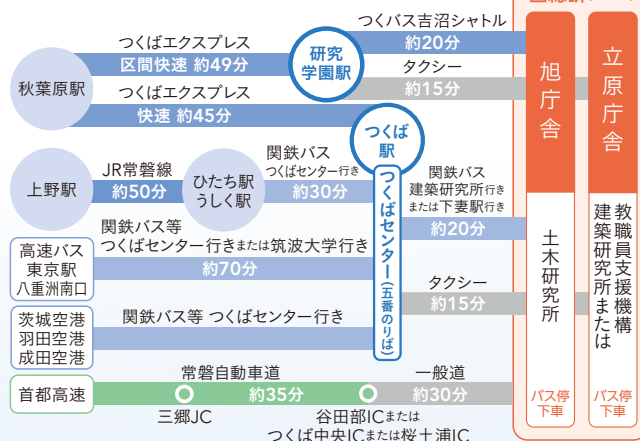
図書室、食堂、運動スペース など

アクセス

■ 国土技術政策総合研究所(つくば)



■ 国総研(つくば)への交通のご案内



庁舎所在地

- ・旭庁舎
〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地 TEL：029-864-2211
- ・立原庁舎
〒305-0804 茨城県つくば市立原1番地 TEL：029-864-3742

問い合わせ先

【行政】総務部人事厚生課

TEL : 029-864-1990 Mail : nil-recruit-jimu@gxb.mlit.go.jp

【土木・建築】企画部企画課

TEL : 029-864-2674 Mail : nil-recruit-gijyutu@gxb.mlit.go.jp

Q ずっと研究所で働くことになるのですか？



A 事務系の職員は、近隣の土木研究所や建築研究所への異動はありますが、基本的には国総研・土木研究所・建築研究所の3研究所において、勤務頂くことになります。生活拠点が確立するため、人生設計が立てやすいかと思います。

技術系の職員に関しては、基本的には国総研内の異動が多いですが、土木研究所への出向のほか、本人の希望・適性を考慮した上での、地方整備局等への出向もあります。地方整備局が管理する河川や道路の現場にて研鑽を積んで頂くことにより、その経験を国総研での研究業務へ活かして頂けます。

Q 宿舎はありますか？



A つくば市内に宿舎が用意されています（入居状況により利用できない場合があります）。なお、賃貸アパート等を借りる場合は、住居手当（16,000円を超える家賃の額に応じて最高28,000円）が支給されます。

Q 学部・学科や学卒・院卒によって有利・不利はありますか？



A やる気と熱意があれば、学部・学科、学歴は関係ありません。大学時代の経験内容と国総研で携わる業務内容は必ずしも一致しませんので、多くの方が業務を進める中で知識・スキルを獲得しています。研修等でのサポートもありますので、心配せず挑戦して下さい。

Q 学生生活で学んだこと（研究内容等）は仕事にいかせますか？



A もちろん、今までの経歴の中で学んだことを活かすことも可能です。しかしながら、国総研が扱う分野は、多岐にわたる分野が複雑に関係していますので、業務を進める上では、今までの専攻以外の分野についても、積極的に学ぶ姿勢が重要です。上司や同僚のサポートや研修制度等もあるので、不安を感じる必要はありませんが、積極的に学ぶ姿勢がある方を歓迎します。

Q 残業や休日出勤はありますか？



A 担当業務や時期によっても異なりますが、業務の都合上、必要となる場合があります。

また、休日出勤・夜間出勤は通常ありませんが、部署によっては、災害対応時や災害調査派遣時等には出勤を求められることがあります。その場合は、振替制度により、他の平日を休日にすることができます。

Q 部活動等を行っていますか？



A 野球部、バレー部、和太鼓部等有志で集まり、勤務時間外を利用して様々な部活動が行われています。興味のある活動がありましたら是非入部してみてください。

和太鼓部



野球部





国土交通省

国土技術政策総合研究所

国土技術政策総合研究所採用ページ



 / NILIM / 国土技術政策総合研究所

